

大阪市のへたな芝居を打ち砕こう

はたして人間のみなはいつまで

そのう、夜のたき出した、動隊や西成署のほうに

ついに新選組までも引き寄せ、大阪市民共闘の「たまたま

手役人が、「新選組のみなを収容する」とはいつまでか

ら、花園公園に足き踏み入れるところに止まりました。大阪市

のこうごき思はずいたまはたは、ひたひた、さうなれば

つねたしはつあはれ。

思い越さず、今井の五の田

千名を越えその機動隊を導入し、越え

村を暴力的につづらした時、大阪市は

表向きに「捕人の収容」を「一見

まっくもる書と言いながり、実際に

は、テント村の仲間の命を守る要求

ー仕事をしてさせる。病院に入れよう

この要求には「一見」を「一見」は

せんとした。殺人行為こそ、社会

的にバクローされる。たまたまの事のみ

を恐れ、「病人を収容する」として

すいたウソをいって「一見」を

テント村つづらぎの世論工作を舞った

のうた。

さういふ大阪市のやり口を、今年

き っ と う と う き り じ っ こ う い い ん か い

越冬闘争実行委員会

TEL 5<さき・ズウ> 632-4273 No 28

72.12.25

2月26日と同様、たぎ出てつづきの工作以外の荷物でも
ありません。公園に結集した百十の名の仲間、「大阪市
はどうとかがえれる。」のシヨブ「D.C.」の節に、サタ
オ子役人が、公園から逃げ戻されたのはあたりまえです。
釜ヶ崎に仕事を持っていくのほらば、ついに、病気の仲
間の入院を保障するものが、越々テ、上村を設営する必
要をたぐなうせら。しかし、仕事をわづらひう奪い去る
病気の仲間への入院は認めない、こうした。今の殺し行政
―大阪府、市の攻撃の下では、命を奪うため、越々ニヤン
上村を断固として設営するべからねばならぬ。

大阪市は入たはせ居をたただ
ちにあきらめ、今すぐ越々ミ
公園の使用を認めろ。

★ 越々ミ公園の使用を認めろ。

★ 釜ヶ崎に仕事を持ってきてこ

い？

★ 病気の仲間を入院させろ？

宿泊期間を延長する

ゆく仲間のみなさん

無料宿泊所の受付始まる

この29日、朝10時から市更相(あいらん)合館(あいらん)で大阪市から、わしらが団結して勝ち取った無料宿泊所の受付が始まりました。越冬公園から宿泊所に入ろうと、朝9時、一七〇名の仲間が市更相に向かいました。ところが何と、西成署のポリ公が多数、市更相の前をウロテヨロしているではないか。そればかりか、機動隊もバス4台で乗りつけていた。

ポリ公は労働者の宿泊所とは全く関係ありません。ポリ公は、今すぐ市更相から返れ。

大阪市は、労働者の中に、オマケまで資格を作りあげ、労働者を全員差別することなく宿泊所に入れようとはしませんでした。そのうは、50才以下の仲間のことごとく追い返され、結局、宿泊所に入れたのは二〇〇名足らずの仲間だけです。オマケは、集まった仲間は全員平等に入れるよう、役人に要求しよう。

無料宿泊所の主人公は

わしらが労働者だ

仕事があれば、わしらは宿泊所には入りません。ところが、毎年、正月になれば、仕事はなくなり、泊るところもなく、わし

らは長年、正月になると生活にほとほと困つていました。

だから、仕事を奪われたわしらは、大阪市に無料宿泊所を用意して、生活を保障しようと要求し、長年、団結して叩つてきました。

無料宿泊所は、このように、仕事を奪われたいわしらが団結して大阪市から勝ち取ったものです。なにも大阪市の「ためぐみ」ではありません。宿泊所の主人公はわしらです。

宿泊所の中で、役人どもに頭を下げる必要は一切ありません。宿泊所を大阪市が用意したしたのは、72年の暮れからで、今年で4回目です。

オ一回 七百名

72年12月30日 1/月4日

オ二回 千名

73年12月30日 1/月11日

オ三回 千三百名

74年12月30日 1/月11日

オ四回 千三百名

75年12月29日 1/月12日

越冬労働者新委員会
75.12.30 NO33
でんわ 632-4273

スゴラスス

宿泊所の期間を延長しろ

今年の正月の不況はいよいよ年目を迎

えます。今年一年間、センターにはほとんど

と仕事は来ませんでした。昨年以上に、わ

らの多くの仲間が、仕事がなく、生活に困

つています。このような宿泊所のベッド数は

昨年同様千三百人分しかありません。昨年は

四百名もの仲間が、宿泊所に入らず、越冬キ

ント村で、寒い夜を過ごすのを御ま

た。今年は、もつと多くの仲間が、宿泊所に

入らず、高カシをさせられるのは明らか

とです。大阪市は、宿泊所の数を増やせ

二千名分の宿泊所を用意しろ

年明けにも、不況な長びき、以前と

センターに仕事な来むいことは、誰れも分

なります。このような、大阪市の、1月12日の

朝には、千三百人の仲間全員を、宿泊所から

追い出す予定をいいます。仕事なむいのに、大

阪市の、宿泊所から追い出すのです。大阪市の

の追い出しをくいとの、宿泊期間を延長させ

るのは、ゆく仲間の困窮した力、これにな

つています。宿泊する仲間は、全員堅く団結

し、大阪市の、仕事な出るまで期間を延長せ

せよう

全員、平等に、宿泊所
に入れろ

宿泊所の数を増やせ

仕事な出るまで期間を

延長しろ

仕事をよこせ